

10月13日は国際防災デーです

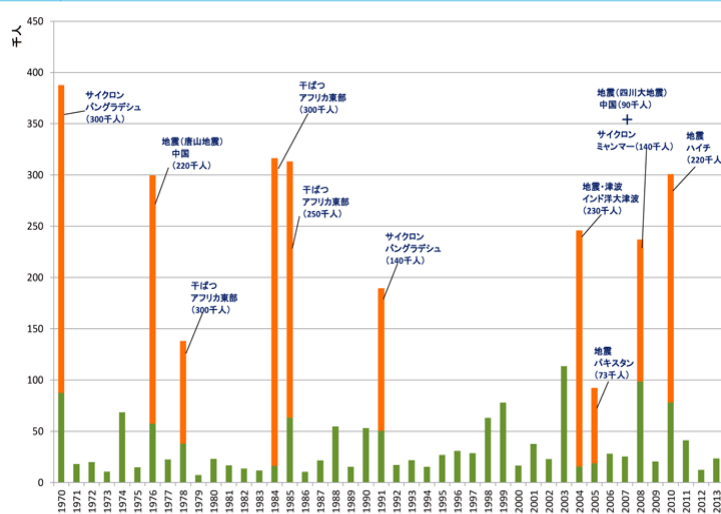
関東大震災（大正12年＝1923年）から100年を節目に、日本政府は9月1日を挟んだ1週間を防災週間と位置づけ、積極的な訓練や防災に関する行事に参加するよう呼びかけている。このように象徴的な自然災害から教訓を残す日としては11月5日の「津波防災の日」もあてられている。この日も安政南海地震（安政元年＝1854年）で語り継がれた「稲むらの日」を例に、津波からの避難を呼びかけている。日本で定められたメモリアルデーではあるが、2015年に仙台で開催された国連防災世界会議でSDGsのフォローアップにつながるよう、世界のメモリアルデーに採択された。（「稲むらの日」は紙芝居や絵本で読むことができるので、図書館で探してみてください）

そして、世界では10月にもうひとつ防災に関係した国際デーがあるので紹介する。「国際防災デー」は過去20年の自然災害による犠牲を減らすために、1989年の国連総会の決議において10月の第二水曜日に減災を目指した国際デーに指定された。（後に毎年10月13日に変更）



世界では、地震、風水害、土砂崩れ、火山噴火、森林火災、虫害、干ばつ、砂漠化などが人命をおびやかす災害として深刻化している。1970・91年のバングラデシュでおきたサイクロン、1984・85年でおきたアフリカ東部の干ばつ被害に注目すると、とくに開発途上国における自助回復は難しいとされており、救援にかかる費用も膨大であった。

図表1 1970年以降の世界における自然災害による人的被害の推移



日本も多額の支援を行ってきたが、同時に自然災害の起こりやすい位置にある。地震や津波に関する被害は予想されているが、想定外のことも起こりうる。減災を目標にした今年の標語は、

「災害に強い未来のために不平等と闘う」。

ハッシュタグで Break The Cycle、DRRDay と検索すると防災デーの参加意志表示ができる。



← DRR（自然災害リスクの削減）のロゴ

SDGs で示されている不平等と災害との関係性を意識した行動をおこそう！

世界の地震 モロッコ・アフガニスタン

北アフリカのモロッコで9月8日に起きた地震から1ヶ月が経ち、これまでに2900人以上の死亡が確認されています。山岳地帯の広い範囲に被害を及ぼし、救助や支援の活動をどのように行き渡らせるかが大きな課題となっています。（以下 9.12・10.8 NHK ニュースより抜粋）

地震から丸2日以上たって消防隊に救助されたアミナ・アイトベルカスムさん（48）は夫と、自宅で夕食をとっていた時に地震が発生したということで、激しい揺れで自宅が倒壊し、2人ともがれきの中に閉じ込められました。

アミナさんは「もし救助隊がもっと早く来てくれれば、夫のけがも軽くて済んだはずだ。あらゆるものが必要だが、支援も足りていない」と救助や支援の遅れを訴えていました。

モロッコでは2004年にも北部でマグニチュード6.5の地震が起きていて、このとき現地調査を行った神奈川大学の^{元のもと}荻本孝久名誉教授（建築工学）は、今回被災した建物の映像を見て、「大都市では近代的な建物も増えているが、郊外などでは耐震性の低い建物が多く、それが被害を拡大させた決定的な要因だ。政府や研究者、エンジニアなどが協力して建物の構造を改善しなければまた同じことが繰り返されてしまう」と話しています。



アフガニスタンで、日本時間の10月7日午後、マグニチュード6.3の地震が2回発生しました。現地で実権を握るイスラム主義勢力タリバンの傘下にある地元当局によりますと、これまでに少なくとも30人が死亡し、500人以上がけがをしました。

アメリカの地質調査所（USGS）によると、一連の地震で、西部のヘラート州で建物が倒壊するなどの被害が出ていて、映像では建物の壁などが大きく崩れた様子が確認できます。

どちらの地域もプレート境界付近で発生！
学校の社会（地理）、理科（地学）で勉強したとおりどちらの地震もプレートの動きが関係している

